



8/3～5、診療所に滞在。連日、午前中は抜けるような青空だった。(8/4)

後列左から、橋本先生(S40)、Ns 菊池、C2 佐藤、M1 岡本、M4 只左、M1 佐藤、寺脇先生のご子息、寺脇先生(H5)。前列は貫和先生(S48)ご夫妻。



縦走初日、横尾から槍沢経由で槍ヶ岳を目指した。(8/6)



西鎌尾根で見かけた雷鳥の雛。そばには母親も。雷鳥は何度見てもかわいいです。(8/6)



双六小屋を見下ろしながら樅沢岳から下る。(8/6)



鷲羽岳から水晶岳へ続く稜線（8/7）



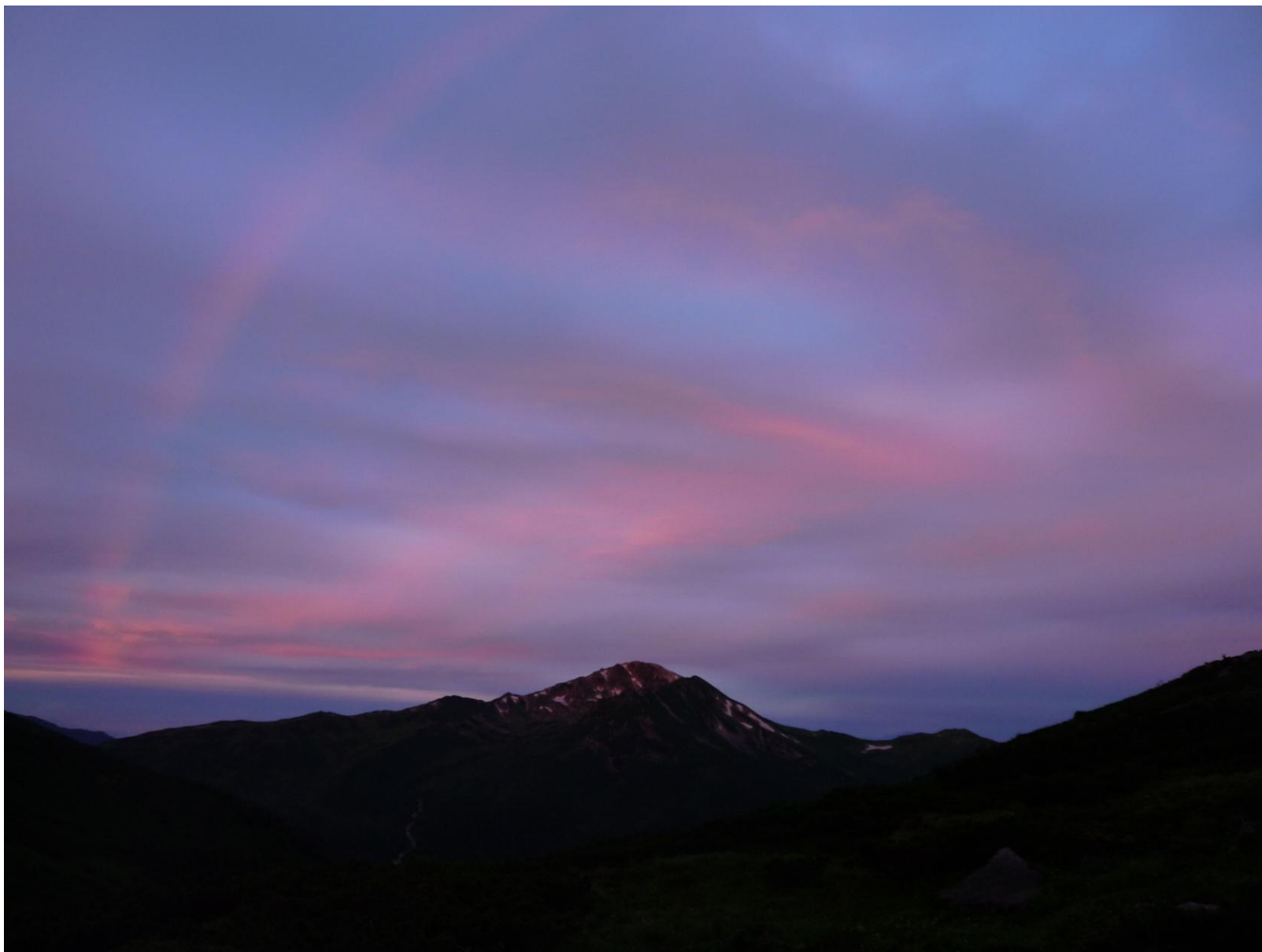
裏銀座の稜線。中央のピークは野口五郎岳。水晶小屋付近から。(8/7)



立派な山容の鷲羽岳。左はワリモ岳、右は槍ヶ岳と北鎌尾根。祖父岳付近から。（8/7）



雲ノ平から眺める夕方の水晶岳（8/7）



夜明けの黒部五郎岳。大きな虹がかかっていた。雲ノ平から。(8/8)



祖父岳から眺める槍穂高連峰。穂高の手前のなだらかな山が双六岳。その手前に見える小屋は三俣山荘。(8/8)



山肌のきれいな三俣蓮華岳。右は笠ヶ岳。祖父岳から。(8/8)



黒部川の源流域。上の廊下を遡行してみたい。正面は三俣蓮華岳。(8/8)



槍穂高連峰と鷲羽岳。水晶小屋付近から。(8/8)



野口五郎岳の山頂付近（8/8）



野口五郎岳から北へ続く裏銀座の稜線（8/8）



烏帽子岳 (8/9)



烏帽子岳と南沢岳の間は素晴らしい景色だった（8/9）



裏銀座はコマクサが多い。南沢岳と不動岳の間で。(8/9)



立山と黒部湖。不動岳付近から。(8/9)



不動岳から眺める水晶岳（8/9）



烏帽子岳(写真中央)。その後ろは三ッ岳。(8/9)



雲海に浮かぶ餓鬼岳(左)や表銀座の山々。不動岳付近から。(8/9)



不動岳～七倉岳の間はアップダウンが多くてきつかった。途中で、後を振り返る。中央やや右が不動岳、その右遠くが薬師岳、左遠くが赤牛岳。(8/9)



槍穂高遠望。この方向から眺める槍穂高は格好いい。(8/9)



針ノ木岳(左の鋭い山)と蓮華岳(右のなだらかな山)。不動岳～船窪岳の間で。(8/9)



七倉岳 (8/9)



船窪岳付近。不動岳～七倉岳の間は、東面が崩壊して絶壁になっている。(8/9)



船窪小屋のテン場付近はダケカンバの美林（8/9）



七倉岳山頂で迎える御来光 (8/10)



餓鬼岳から、燕岳、大天井岳、槍ヶ岳と続く尾根。手前は七倉岳の細長い山頂。(8/10)



槍穂高連峰。西鎌尾根から雲が滝のように流れ落ちる。(8/10)



立山(中央)と剱岳(右端)。七倉岳から。(8/10)



北葛岳から眺める針ノ木岳 (8/10)



左から、餓鬼岳、唐沢岳、燕岳、大天井岳、東鎌尾根、前穂高岳、そして槍ヶ岳。(8/10)



富士山と八ヶ岳(左)と南アルプス(右)。甲斐駒ヶ岳がくっきり。(8/10)



どっしりとした蓮華岳。中央の稜線が「蓮華の大下り」。これを登る。(8/10)



蓮華岳のコマクサの群落は日本一と言われている。盛りをかなり過ぎていたが、それでもすごかった。ここのコマクサはガレの上にも生えている。(8/10)



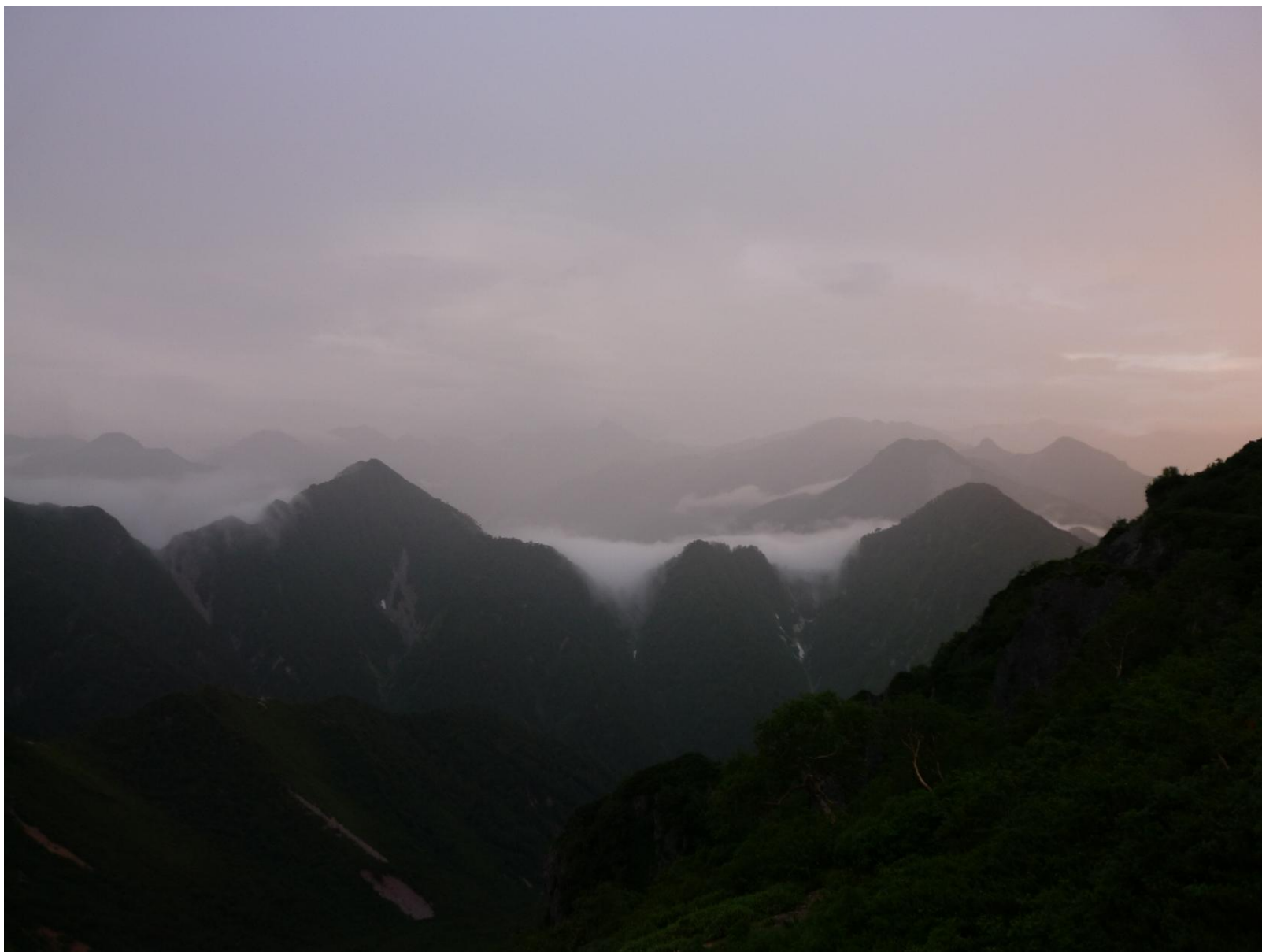
真っ白いコマクサ。ここの「白いコマクサ」はあちこちで話題になっていた。(8/10)



蓮華岳山頂で見かけた雷鳥の親子。蓮華岳一帯は雷鳥が多い。(8/10)



針ノ木峠のテン場に到着してしばらくすると、ひどい雷雨になった。テントの中から南の方を覗いて撮った一枚。(8/10)



夕方、雷雨が止み、幻想的な光景が広がった。遠くには槍ヶ岳もかすかに見える(写真中央)。(8/10)



テン場から北の眺め。遠く白馬岳まで見える。中央やや右の双耳峰は鹿島槍ヶ岳、右端は爺ヶ岳。針ノ木峠の眺めは本当に素晴らしい。(8/10)